



B2階展示室のコンクリート杉板本実型枠打放し天井



ホワイトオーク無垢板をくり抜いた階段



全景



竹中大工道具館新館

作品の紹介

高層ビルが立ち並ぶ新神戸駅前
のありふれた景色の中に、緑豊か
な一画が残されている。「都市の
中の森」とでも呼べるようなこの
緑は、新幹線の線路をまたいで六
甲山の山裾に連なり、駅前があり
ながらエアポケットのように静
謐な雰囲気の間所をつくり出して
いる。元々ここには、竹中工務店
の社屋や、竹中家の屋敷があった
らしい。この企業のメセナ活動の
一環として一九八四年、神戸市中
山手に大工道具館が開館した。そ
して設立三〇年を迎えた二〇一四
年に、それを記念してこの地に移
転することになったのである。

往時の雰囲気を残すべく、敷地
内の茶室や樹木は可能な限り保存
された。残された空間を有効活用
するため、大きなヴォリュームと
なる常設展示スペースや木工教室
などの主要機能は、地下の二層に
配置されている。地上部分には、
瓦葺大屋根に守られた透明感の高
い平屋の建物だけが、伸びやかに
置かれている。ここにはエントラ
ンスを兼ねる多目的ホールが配置
され、訪れる人を迎える構成とな
っている。

名人の手によって研つられたと
いう名栗仕上げのエントランスド
アがゆつくりと開き、室内に足を踏
み入れると、スギ無垢材を使った
繊細な合掌垂木の格子天井が目
前に広がる。無柱空間の南北両面
いっぱいに取り込まれた開口部から、
周囲の緑が目飛び込んでくる。
快適性と可変性を兼ね備えたこ
の多目的ホール空間をつくり出し
ているのは、十分に練られた構造
計画である。東西面にRC耐震壁
を配置して開放的な南北面をつく
り、寄棟形状をした大屋根の桁方
向に屋根面に沿ってダブルアーチ



BCS賞は、建築の事業企画・計画・設計・施工、環境とともに、供用開始後1年以上にわたる建築物の運用・維持管理等を含めた総合評価に基づいて選考し、建築主・設計者・施工者の三者を表彰する建築賞です。
この賞は、1960年にはじまり2017年で58回を数えます。

< 2017年 第58回 BCS賞受賞作品 > 静岡県草薙総合運動場体育館(このはなアリーナ) 新宿東宝ビル 太子町新庁舎「太子の環」 人がつどう・まちをめぐる・太子がつながる 竹中大工道具館新館 教習駅交流施設「オルパーク」 駅前広場キャノピー TSURUMIこどもホスピス 東京駅八重洲口開発: グランルーフ、グラントウキョウノースタワー、グラントウキョウサウスタワー、駅前広場 TOTOミュージアム 桐朋学園大学調布キャンパス1号館 としまエコミュニセタウン TOYAMAキラリ 虎ノ門ヒルズ(環状第二号線新橋・虎ノ門地区第二種市街地再開発事業Ⅲ街区) 直島ホール MIZKAN MUSEUM YKK80ビル [特別賞]日本橋ダイヤビルディング [江戸橋倉庫ビル]の保存・再生 早稲田大学 早稲田キャンパス3号館

建築主

木の文化を伝え続ける博物館

わが国は豊富な木材資源に恵まれて古くから木の文化が栄えてきました。その代表が木造建築であり、またそれを造るのに欠かせないのが大工道具です。当館はその文化を後世まで伝えようと1984年に設立されました。開館30周年を迎え、より魅力的な博物館にすべく現在地に移転・新築することになり、木の文化を伝えるにふさわしい建築をつくりあげたいと思いました。

緑豊かな環境を残しながらも、博物館に必要な空間と機能を備えること、和風の寄棟造にふさわしい鉄骨構造や天然素材を多用した内装の実現など、様々な難題解決を設計者をお願いすることになりましたが、その甲斐あって来館者からは「木の香りがする」「緑に囲まれてくつろげる」などのお褒めの言葉をいただいております。今後は本賞に恥じぬよう、いつまでも皆様に愛され続ける博物館でありたいと思います。



公益財団法人
竹中大工道具館館長
赤尾建藏
Kenzo Akao

設計者

ものづくりの殿堂を目指して



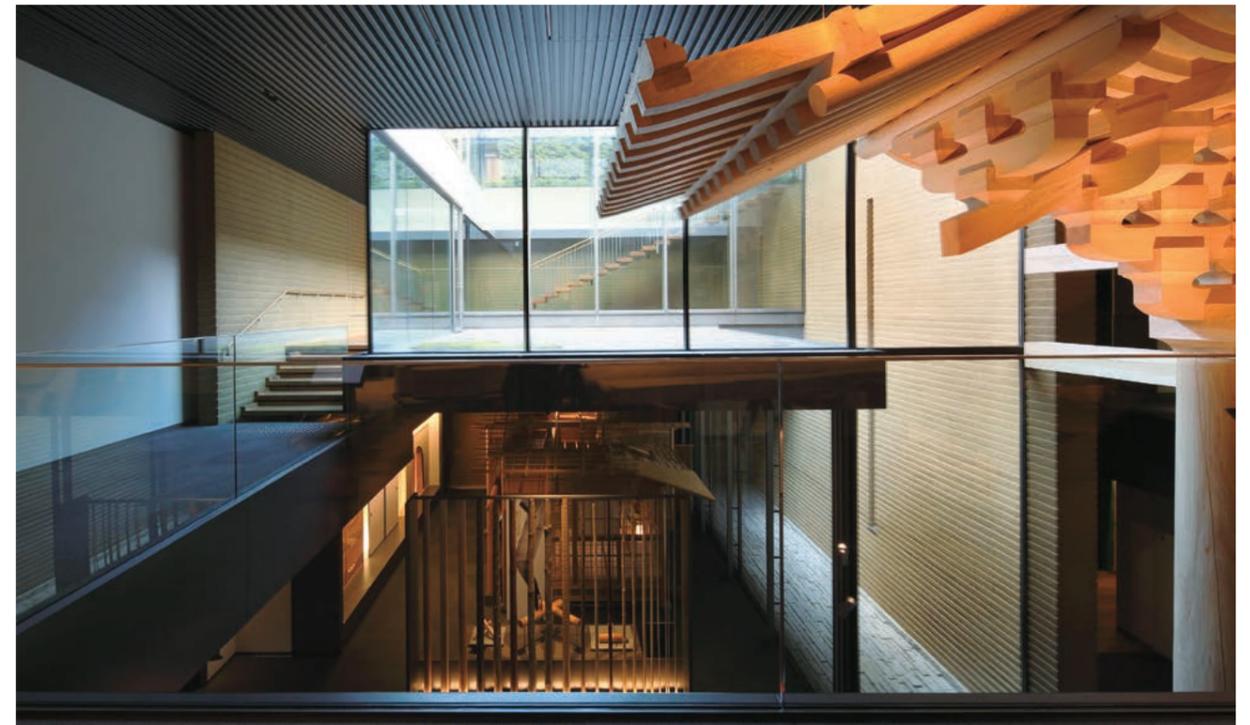
株式会社竹中工務店
大阪本店
設計部 設計第3部長
小幡剛也
Takeya Obata

敷地の緑豊かな環境を未来へとつないでいくため、できるだけ樹木を残す計画としました。新しいシンボル展示（唐招提寺の柱と組物）と、一体となる地下2層にわたる中庭と吹抜けによって、豊かな自然を建物に引き込み、中庭を巡るシークエンスに、現代の職人たちの伝統と革新の生きた技を組み込みました。

大工道具は人の知恵と技を通じて、自然を人の生活につなげる役割を果たしてきました。そ

して道具職人のたゆまぬ努力による進化の連続を経て、珠玉の大工道具が生まれました。我々も設計・施工を通じた一連の過程の中で、建築主・職人・設計者・施工者が一丸となり「ものづくり精神」の結晶となる博物館を目指しました。

常に新しい可能性を求め挑戦するものづくりの心が、この場所を通じ次世代へとつながっていくことを願ってやみません。



B1階展示室より中庭を望む。



1階多目的ホール

を架けて、最少の部材で無柱のフレキシブルな空間を実現している。このような現代の最新技術と、ものづくりの心を今に伝える匠の技の融合が、この大工道具館の設計上のテーマである。地下に自然の光と風を呼び込む中庭を巡って展示空間の順路をたどっていくと、次々と職人技を凝らした仕上げが展開する。淡路の伝統窯でつくられた瓦の敷き込まれた落ち着いた中庭。そこを巡るように、無垢材から削り出した段板の階段を踏みしめながら地下に降りていくと、左官職人によって入念に仕上げられた逆下見板状の削り出し土壁が



杉無垢材ルーバー天井ディテール

職人の技が凝縮された大工道具を「集め」、それを元に伝統的な匠の技を「伝え」、そして建築文化を「広め」ていこうという活動を長年にわたり継続している建築主の思い。それを受け、伝統技術と最新技術を融合させて、建築文化の発信拠点を実現した設計者・施工者の努力に賛辞を送りたい。

右は『第五八回BCS賞作品集』選評をもとに事務局でまとめました。

施工者

伝統と革新をつなぐ

竹中大工道具館新館は、市街地にありながら豊かな樹木に覆われた敷地内に計画されており、工事期間中はこれらの樹木の保存に留意しました。延床面積が2,000㎡弱と小規模な建物ですが、左官・瓦・大工仕事等の多くの伝統技術と、構造形式や設備システム等の最新技術が、まさに所狭しと盛り込まれた難易度の高いプロジェクトでした。このため多くの課題がありましたが、建築主・設計者・協力会社・作業所で一体

となって克服した結果、「ものづくり」の楽しさを再認識することができました。持てる力を存分に発揮してくれ、プロジェクトの成功に寄与してくれた職人の皆さんには本当に感謝しています。

今後も訪れるすべての方々に、「伝統技術と革新技術の融合」を楽しんでいただくとともに、竹中大工道具館が新たな文化の発信地になることを祈念しております。



株式会社竹中工務店
神戸支店
作業所長
田中克巳
Katsumi Tanaka

計画概要

建築主：(公財) 竹中大工道具館

設計者：(株)竹中工務店

施工者：(株)竹中工務店

所在地：兵庫県神戸市中央区熊内町7-5-1
竣工日：2014年4月30日

敷地面積：2,744㎡
建築面積：539㎡
延床面積：1,884㎡

階数：地上1階、地下2階
構造：鉄骨造、鉄筋コンクリート造